

社外取締役からのメッセージ

「FSG.30」実現のカギを握る財務の力

フジシールグループでは以前から資本コストを重視した経営を目指していますが、東証の要請を契機に改めて見直しを図りました。ROE(資本利益率)が資本コストを上回るよう、資本コストを下げる努力を始めたこと、単に計算式を追うのではなく、投資家との対話を通して望まれている数値を把握したことなどが非常に良かったと思います。また、そうした外部とのコミュニケーションも含めて近年はIRがかなり充実してきており、情報の非対称性の解消にも繋がっていると感じます。

新経営計画「FSG.30」に関しては、キャピタル・アロケーションなど財務的なアクションが大変重要であり、現場任せではなく、全社一丸となって取り組む必要があります。一方、財務としては、ブランド、顧客資産、人的資本、サステナビリティ経営、知財といった“見えない資産”をいかに数量的に表現し活用していくのか、ということも大切な役割の一つです。今年度、新たな方が財務担当執行役に就任されました。フジシールグループのリソースを最大限に生かして、「FSG.30」の実現に向けた施策を積極的に打ち出していきたいと思ひますし、今までにないアイデアやノウハウに期待しています。



社外取締役(就任8年)
牧 辰人

事業フェーズに応じたきめ細やかな判断を

新経営計画「FSG.30」では1,000億円の投資計画を掲げており、2024年度時点で約170億円の投資を決定しました。現在、新工場の建設や既存工場の能力増強など、各リージョンの現状に合わせて実行に移している段階で、それぞれタイミング的にも内容的にも成長案件への投資という条件を十分満たしていると思ひます。一方、現在までの投資は3つの成長戦略の中の「既存4事業の着実な成長」が大きな比重を占めていますが、「製品マーケット・ターゲットエリアの拡大」と「次世代に繋がる新たなビジネスモデルの創造」に関しても基盤整備のための投資を行い、次の成長に向けての取り組みを進めているところです。今後、大型の設備投資やM&Aなどの案件が上がってくると思ひますので、検討のプロセスをしっかりと見ながら次のステップを楽しみに待ちたいと思ひます。

「FSG.30」は、これまでの延長線ではない、新たな成長モデルをつくるための経営計画だと理解していますが、新規事業というのは不確定要素が多く、既存事業と同じような尺度で考えないことが大事です。いつまで待てるのか、その間にどのくらいの投資ができるのか。会社として意思決定をした上で新規事業なりの判断や評価をしていくことが成功に繋がると考えています。



社外取締役(就任6年)
関 勇一

適切なリスクマネジメントでさらに前へ

この度、社外取締役に就任しました。まずは事業や製品などさまざまな情報をしっかりインプットし、法律家としての知見も生かしながら、会社をより良くするための正しい判断をしていきたいと思ひます。

フジシールグループのようなグローバル企業では、海外拠点に本社の目が行き届かないがゆえにガバナンス上の問題が生じる、ということがよくあります。では、いかにリスクマネジメントをしていくのか。その国や地域にアンテナを張り巡らせて情報をいち早くキャッチし、スピーディーに対応する。各リージョンのトップとしっかりとコミュニケーションを取る。すべてのリスクに完璧に対応することは難しいので、優先順位をつける。この3つが主なポイントだと考えます。なお、世界中に拠点があるというのはリスクを分散できるということでもあり、フジシールグループの場合は、強固なサプライチェーンを各地域で構築していることも含めて、大きな強みになっていると感じます。

社外取締役とは中立公正な立場であり、ブレーキをかける役でもあるのですが、リスクを恐れるばかりでは何もできません。これはぜひ実現しましょう、と一緒に歩みを進めていく。そんな役回りとしても貢献できれば、と思ひています。



社外取締役(初就任)
植村 公彦